

1998年8月1日 No.27

ふれあい

平成10年度通常総会盛会裡に終わる

5月27日午後1時30分から平成10年度通常総会が、市立アクア文化ホールにおいて開催。第1部は、総合人間研究所所長早川一光氏の「いきいき生きる」をテーマとした講演があり、第2部は、正会員の阪口充男氏を議長に選出。平成9年度の事業報告や決算、平成10年度の事業計画案や収支予算案等の全ての議案が原案通り承認されるとともに理事・監事が選任されました。

総会ごあいさつ



理事長

宮崎 英三郎

本日は、平成十年度社団法人豊中市シルバー人材センターの通常総会を開催いたしましたところ、ご来賓の皆様方には時節がら誠に多用中にもかかわらず、ご臨席いただき、心から御礼申し上げます。
また、会員の皆様には、大変お忙しい中、このようにたくさんご



豊中市長

一色 貞輝

豊中市シルバー人材センターの平成十年度通常総会が盛大に開催されましたことを、心からお慶び申し上げます。
平素皆様方には、市政の各般にわたりました、格別のご支援・ご

参加くださいまして、まことにありがとうございます。
本年度の総会にあたり、ひとつと、ご挨拶申し上げます。

今日、私達を取り巻く社会・経済の動向は、バブルが崩壊した後、景気は混迷を極め、金融機関等の相次ぐ破綻や、リストラ等による雇用情勢の悪化など、先行き不透明な時代を迎えており、高齢者を取り巻く日常生活面におきましても、非常に厳しい状況が続いています。

このような中ではありますが、当センターの平成九年度の事業実績を見ますと、会員数が一千二百九十五人、契約金額は三億八千七十七万円で前年度より二千五百六万円増となりました。

協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

また、皆様方の絶大なご支援のお陰をもちまして、五月十五日から市長の重責を担わせて頂き、就任以来、市民本位の開かれた市政運営を基本に、「二十一世紀にはばたく豊中」のまちづくりをめざしまして、全力を傾注しているところでございます。

豊中市シルバー人材センターは、高齢者の就業と生きがいの場として設立されて以来、順調に発展をされ、着実な成果を上げてこられました。これもひとえに宮崎理事長さんをはじめ、歴代の役員の方々

このように実績が前年度を上回る事が出来ましたが、市当局や発注者の皆様をはじめ会員各位の仕事への熱意ある取り組みの成果によるものと心から感謝いたしているところでです。

一方、国におきましては、深刻化する少子高齢化社会に対応するため、高齢者になったら「年金生活に入る」とか「社会や家族にみてもらう」といった考え方から、働く意欲や能力のある人は、年齢にかかわらず、仕事に関わったり、ボランティア等として社会参加ができる仕組みをつくるため、新たな高齢者対策事業を早ければ平成十年度から実施したいとの考えがあること聞き及んでおります。この様な動きからも伺えますよ

並びに会員の皆様方のためまぬご努力の賜と、深く敬意を表する次第であります。

今日、急速に進展する高齢社会の中で、皆様方が豊かな経験と能力を生かされ、共に助け合いながら活力ある地域社会づくりにご参加をいただき、高齢者の福祉増進に寄与されておりますことは誠に意義深いものであります。

本市を取り巻く財政環境は大変厳しい状況にありますが当市における六十五歳以上の高齢化率が十二％台に達している状況の中で、高齢者対策をはじめとする福祉・医療の充実など、市民の健康と福

うに、シルバー人材センターの果たすべき役割は、今後ますます重要になるとともに、地域社会や市民からの期待も一層大きくなってくるものと思われれます。

当センターにおきましては、活力ある高齢化社会の一翼を担う組織であることを再認識するとともに、さらなる事業の発展・拡充に向け創意と工夫をこらしながら努力してまいりたいと考えております。

本日の総会には、平成十年度の事業計画等、重要な議案を提出いたしておりますので、十分に審議いただききりある総会にしたいと思っております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念致しまして、私の挨拶といたします。

社の向上のために全力で取り組んで参りたいと思っておりますので、皆様方には、引き続き格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、豊中市シルバー人材センターの今後益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。ましてお祝いのご挨拶といたします。





豊中市議会議長
前川 勤治

本日ここに、豊中市シルバー人材センターの平成10年度通常総会が開催されるにあたり、市議会を代表

新役員紹介

五月二七日に開催された通常総会でこの二年間、法人の運営にあたる理事が選任され総会の幕間に開催された理事会で理事長、副理事長、常務理事の役員が決まりました。新しい理事会の構成は次のとおりです。

- 理事長 宮崎英二郎(再)
- 副理事長 水上 利夫(再)
- 常務理事 中川 善博(新)
- 理事 山路 政市(再)、織田 照子(再)
- 林 泰野(再)、藤田 泰通(再)
- 上田 善治(再)、吉川武一郎(再)
- 宇都宮義典(再)、藤井 健二(再)
- 藤本 哲夫(再)、徳永美恵子(再)
- 岡本宗五男(新)、飯野 敏雄(新)
- 出嶋 慎一(再)、小磯 克己(新)
- 監事 古市 恒義(再)、小森 秋男(新)



して一言お祝いを申し上げます。皆様方には、平素より市政各般ならびに市議会活動に対し、深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

ご承知のとおり、人口の高齢化が一段と進む中で豊かな長寿社会を築くことは、行政に課せられた重要な課題となっております。しかしながら、長引く景気の低迷や不況による税収の減少、国民年金制度の改定・医療保険制度の見直しなど、私たちを取り巻く環境は、

大変厳しいものがございます。

このような中、貴センターにおかれましては、高齢者の就労の斡旋を通して、生き甲斐づくりや社会参加にも積極的にご尽力を賜っており、誠に心強い限りであり、深甚なる敬意を表し、感謝を申し上げます。

また、センターを通じて働いておられる方々の熟練した技術と豊富な経験は利用される方々にも満足いただいているとお聞きしており、今後のご活躍を大いに期待いたします。

事務局だより

シルバー人材センター フェスティバル'98開催

大阪府内シルバー人材センターの年に一度のお祭りです。府民の方にシルバー人材センター事業について理解と認識を深めていただくことにより、高齢者により多くの就業機会を確保することを目的にシルバー人材センター・フェスティバル'98を開催しますので、隣近所のお友達をお誘いあわせのうえ、ご来場ください。

実施日 平成十年十月二十一日(木)
十二時から十六時三十分
二十一日(休)

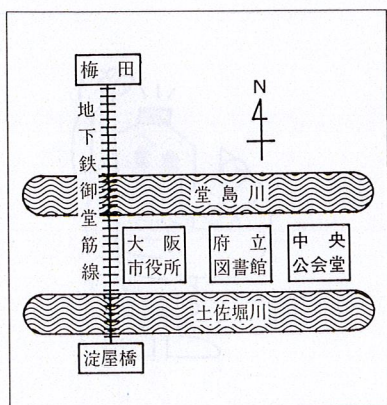
場所 大阪市中央公会堂
九時から十六時三十分
(北区中之島一―一七)

市議会といたしましても、ゆとりと豊かさが実感できる快適なまちづくりを目指し、一層の努力を傾注してまいります。

皆様方には今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、豊中市シルバー人材センターの今後さらなるご発展と、本日ご参会の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。お祝いのご挨拶といたします。

内容 ・各種実演コーナー
・経験交流会
・アトラクション他



最近ペットボトル入りの飲料が増えて使用量は年々増加の一途。でも、びんや缶と違いペットボトルのリサイクル(再利用)はまだ始まったばかり。そんな現状では多くのペットボトルがごみとして捨てられています。見た目からは想像しにくいですが、ペットボトルはきちんと集めるとTシャツや制服・カーペットなど様々な製品に生まれ変わります。豊中市では六年間で約百四十万本を回収、製品に生まれ変わらせてきました。

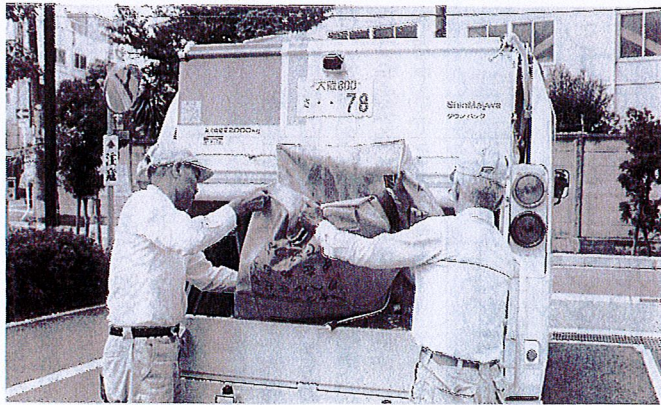
そんな中、今までの回収体制では追いつかなくなるほど回収量が増え、今年六月から新たにシルバー人材センターさんに回収をお願い



よみがえれ！ ペットボトル

新しい事業紹介

いすることになりました。いま、六人の会員さんが交替で頑張ってくれています。ピカピカのペットボトル専用回収車に乗り、市内あちこちに点在する回収場所を回って、市民の方が持つてきてくれたペットボトルを一生懸命集めてくれています。



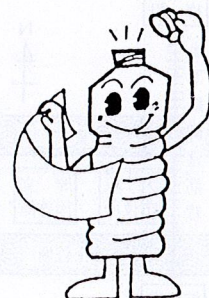
「みんなの努力でペットボトルをもつ一度よみがえらせてほしい。」そう思つて、毎日仕事をしています。そんな資源のリサイクルが、高齢者の仕事となり、生き甲斐につなげていくことを大変嬉しく思っています。一人ではできないけれど、シルバーの皆さんと一緒に、少しでも多くのペットボトルを集めていきたいですね。

会員の皆さんも資源のリサイクルにご協力くださいね。

(市再資源対策課)

出し方

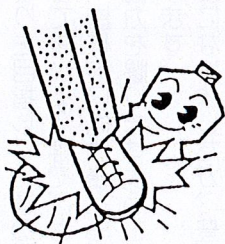
①キャップとラベルをとる



②中を洗う

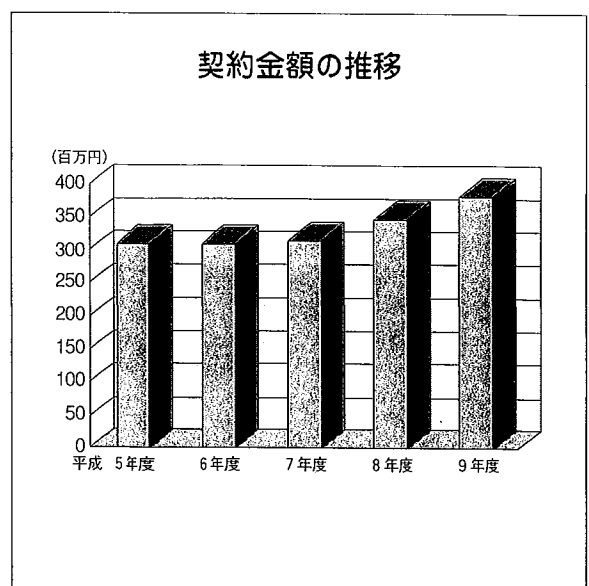
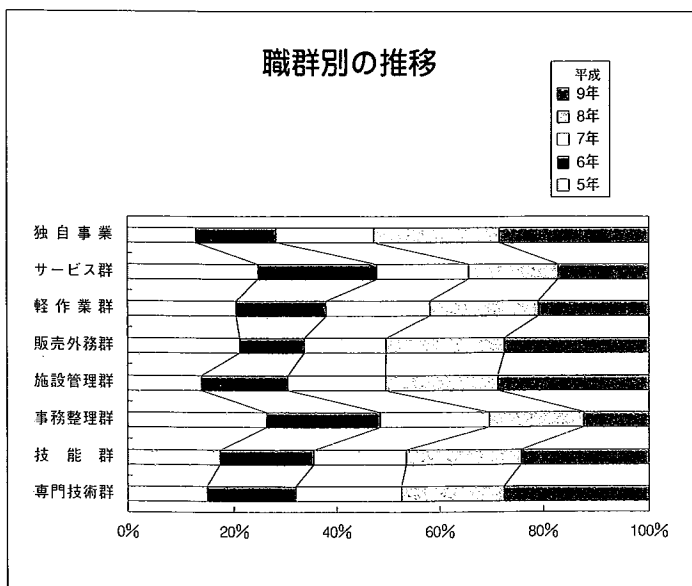
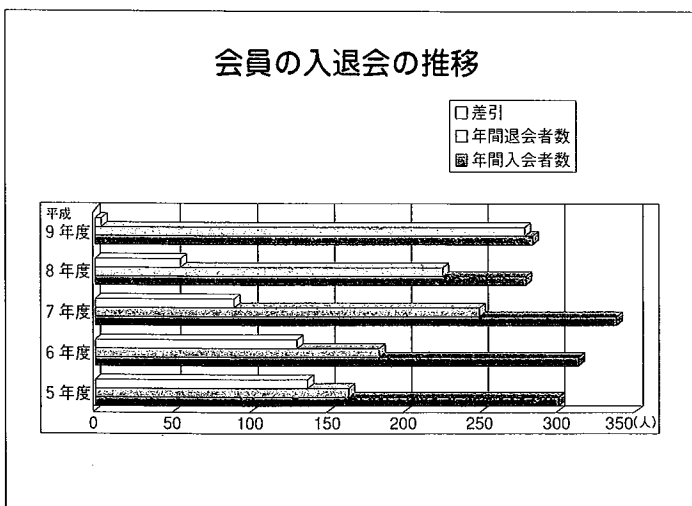
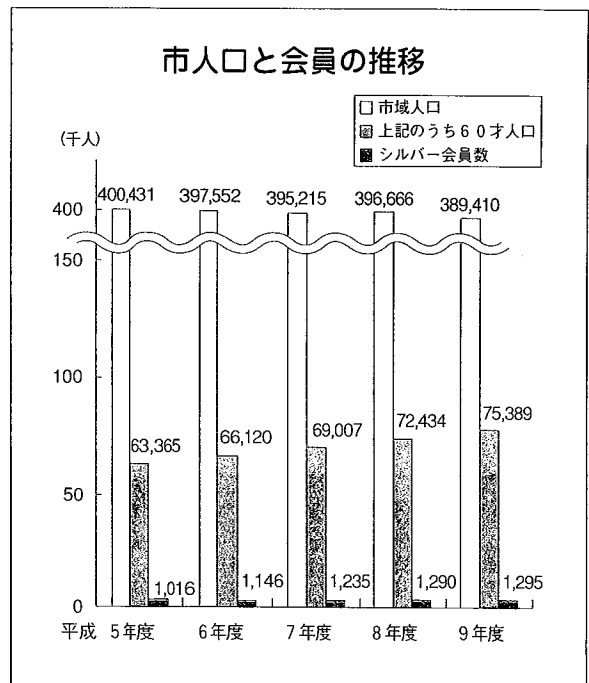
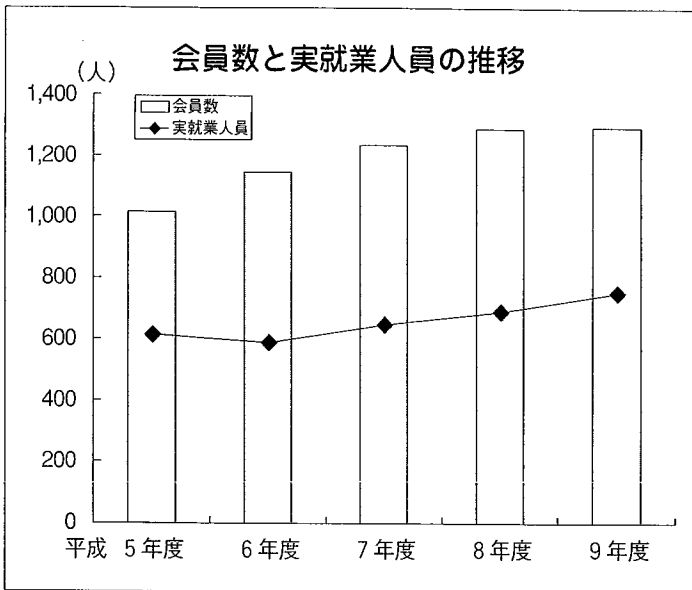


③足で踏みつぶす



図で見る センターの状況

いま日本社会は、経済や社会の構造が大きく変化するなかで、財政面や金融経済面をはじめ社会のあらゆる分野でいままでの在り方を変えて行く動きが進みつつあります。シルバー事業もこのようにななかで大きな転換期にあります。このコーナーでは、シルバーの事業推移等のデータをもとに会員の皆さんとともに考えるコーナーとしました。ご意見をご提案をお寄せ下さい。



楽しかったバスツアー (3月27~30日)
 三保の松原・久能山東照宮
 焼津温泉の旅

平成十年三月二日(月)花曇りとも
 言える朝、定刻八時より少し早め
 に、名鉄(淡路)観光バス二台に
 分乗し、一行九十人は元気良く市
 役所前庭を出発した。国道176から
 名神高速道に入り、交通渋滞にも
 巻き込まれず、快適に名古屋ICへ
 と向かった。

天候にも恵まれ、多分に添乗員
 のバスガイドさんの熱意に動かさ
 れたのか、白く冠雪した比良山も
 くつきりと、姿を現し、バスガイ
 ドの「今日は日本アルプスが見え
 るかも知れませんかよ」とのご託宣
 をききながら、木曾の御岳山(307)
 を拜ませてもらい気を良くして、
 一路東進。

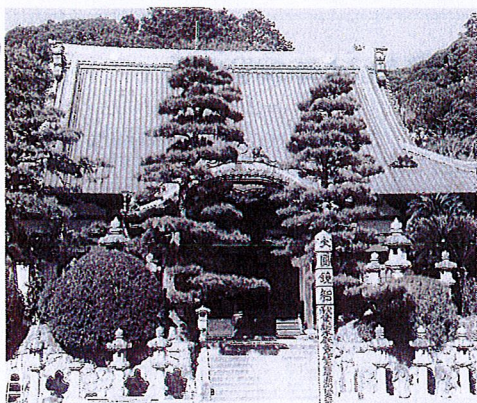
やがて、小牧ICを過ぎ、東名高
 道に入ると白馬(282)、木曾駒岳
 (295)そして、乗鞍岳(246)と、
 ガイドさんの甲高い案内声に聞き
 惚れ(?)て、白馬連山のスキー
 場や長野オリンピックに思いを馳
 せている内に、豊田IC、岡崎ICを
 過ぎて三河一宮町へと来ました。
 バスの右手に浜名湖を見て、三方
 原P.A.に参りますと、もう昼食の予

定地の袋井につきました。

昼食後は、バスで十分の所にあ
 る「可睡齋」を拝観した。

◎可睡齋 山号「万松山」

東海道では、曹洞宗第一位の禅
 寺の名刹。家康が竹千代のころ、
 今川義元の人質となり、一時はこ
 のお寺に預りの身となった時、住
 職より可愛がられ、慈父のように
 慕った。のち天下をとり、駿府城
 に還つてからは、度々老師を迎え
 ご馳走したが、その折り老師が長
 旅の疲れか気の安らぎのせいか、
 うとうとと居眠りをされた折「よ

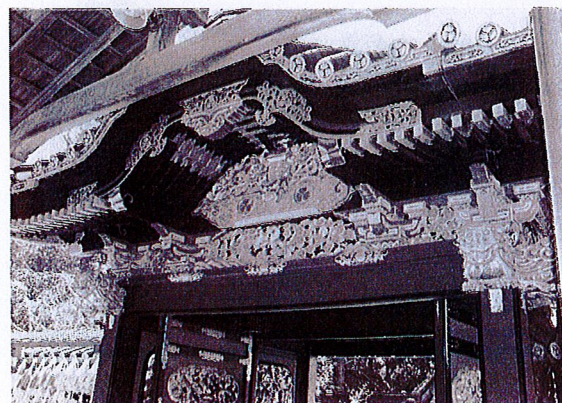


きかな、睡むらしておやり」と言
 われた、それよりこのお寺を「可
 睡齋」と呼ばれるようになった。
 十万石を賜り、万松山の東側一面
 広大な寺域にて宿坊も三百人収容
 と大きく、東海地区では参詣者が
 跡を絶たない名刹。

◎三保ノ松原と羽衣の松

清水平東南部の駒越から駿河湾
 上を東北へ5km余りも長く突出す
 る砂嘴で、外洋に直面しているの
 が珍しい。白砂と老松の対照がよ
 くきわだっている。

次いで、「油山寺」を拝観した
 後、「ビルハウス」のいちご畑



を眼の辺りにしつつ、宿泊予定地
 の焼津温泉「松風閣」に向かった。
 「松風閣」は岬の頂上に位置し、
 左は遠く富士山を眺望する事がで
 き、眼下に焼津漁港を見下ろす誠
 に地の利を得た立派なホテルであ
 った。

夕食は事務局の担当の方々の折
 衝よろしきを得て、海の幸豊かな
 誠に豪華な食事を頂きました。宴
 会では歌あり、踊りありで会員の
 タレント振りが存分に発揮され、
 楽しい夕べとなりました。最後の
 お楽しみ抽選会では、日頃の労苦
 を忘れさず心のこもった景品の数々
 が用意され参加者全ての方々が満
 足そうでした。中には、宴会後、
 ホテル内のカラオケバーにまで足
 をのばして鋭気を養つておられた
 向きもあつたようです。

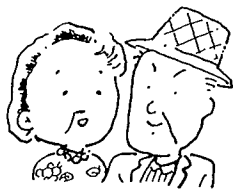


翌日は、富士山を背景に日の出の風景をものにせんと、皆朝早く起きておられていたようです。朝食もバイキング方式で各自の好みに合わせて和食、洋食と大変楽しくエンジョイされていました。

チエツク・アウト後は三万五万土産ものを仕込んでバスに乗り込み、まぐろで有名な焼津鮮魚センターに立ち寄った後、三保の松原にて、遠景に富士山を入れ、天女になった気分の昔日の美女たちをもなつて写真撮影をされていました。

その後、日本平ではロープウェイにて山頂の日光東照宮の原型といわれる結構な「久能山東照宮」を拝観。下山の後、日本平パークセンターにて昼食をすませ、製茶工場を見学、静岡ICから東名・名神と乗り継いで一路豊中へ。

帰路には、前夜、歌い残したカラオケのレパートリーを堪能するほど歌い終わった後には、とらさんシリーズの映画を楽しみながら一同和気あいあいの裡に予定通り帰着。事故もなく、感謝の気持ちで一杯です。



募集

ひなせ 日生の「みかん狩り」と 赤穂浪士ゆかりの地を訪ねる旅

- 実施日 平成10年11月2日(月)
- 行き先 日生諸島(岡山県)
お土産「みかん」3kg付き
- 費用 @6,500円(会員負担)
- 募集人員 120名



- ・送迎船で日生諸島に渡ります(約15分間)ので、体調に不安のある方は、ご遠慮ください。
- 受付 9月1日(火) 午前9時電話・FAX 受付開始
TEL 856-1777、FAX 856-2859
受付締切 10月9日(金) 午後5時
・募集人員をオーバーした場合は、抽選(抽選日:10月12日)により、決定します。

昼食場所 呑海楼(瀬戸内の潮騒に抱かれ。のんびりと寛げる空間を楽しんでください。)
兵庫県赤穂市御崎131 TEL 07914-2-3263



庄内の作業場から

こんにちわ



第四班
徳永美恵子

日差しが眩しい午後、私は初めての取材に庄内公民館内老人福祉センターをお尋ねした。建物内の一部にシルバー人材センターの作業場がある。事務室に入ると、部屋の中には取手のない紙手提げ袋が種類別、サイズ別に紐でくくり山積みしてある。横にはラベルを張った納品のダンボール箱がとこるせましと出荷の時を待っている。責任者の松宮さんがみえて、早速お話に入る。会員さんは六名で、宮崎三雄さんは五十八年八月から仕事を始め、吉武こなみさん、石丸倫子さんと共に五年以上のベテラン。津波古政子さんは三年以上、堀口喜代子さんは三ヶ月のホヤホヤさん。最後に松宮久子さんは、六十一一年四月から、作業場も経験

済で現在は事務を担当。職場のお母さんと呼ばれ人生相談の面倒も聞いて下さるとか。

作業時間は九時入りで、三時半で終了。配分表は各自の仕上げ枚数で記帳されて内職扱いと同じとの事。五名の仕上げ数が一日平均一〇〇〇枚、休憩時間は特になく仕上げの袋を事務室に運んだ後で各自が休憩を取る。

一日の作業が終わると、センターのお風呂で汗を流して帰宅。皆さんは会館の近くから通勤、お昼はお弁当を持参、お昼時がいちばん楽しみとか。

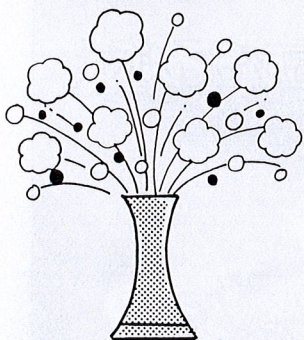
次は作業場に案内して頂く。廊下に出ると、娯楽室には、大勢の皆さんが集まり、男性群は静かに囲碁や将棋で戦いの最中。打つ人差す人、私も一寸岡目八目。隣の和室広間では、女性群が賑やかなカラオケ大会、舞台を見るとマイク片手にご機嫌!!大きなテーブルの上には、お弁当にお菓子、出番を待ちながら、弾む笑声が幸せを誘う。廊下を曲ると突然目の前が明るくなる。ドアがない和室は、広々として天井も高い。スリッパを脱いでお邪魔する。此処では宮崎さんから作業の説明。毎日が単純作業なのに、皆さん熱心で正確な仕上げが喜ばれている。評判も上々とか。

次は皆さんにお聞きする「お仕事を始めた動機です。誰方もお気軽に!!」私は二〇二〇として声を

掛けた。皆さんの笑顔がこちらを向いた。家に居ると身に良くないし勿体ないと思う。働きに行くと人との出会いが楽しく勉強になる事が多い。最後の答えに私は驚いた。「シルバーの旅行の時のお小遣いでです。一番大事な事やん、忘れんと書いてよ」。私苦笑い。メモから顔を上げると、皆さん大笑い。気がつくとお互いが涙をふいている。

最後に一人の方のお話が心に残った。それは、街の中で、乗物の中で、自分達が作った手提げ袋を見た時、嬉しくツイ傍に寄つてなつかしく思うとか。又珍しい袋をみつけると皆さんで作つて見たいと思う。

私はこのお話を聞いて、地味な仕事もお金じゃない。私は自分に言い聞かせた。さよならと言って玄関に出ると、思い切り背筋をのばして、六月のまぶしい太陽を強く見上げた。そして皆さん今日はおおきに。始めての取材万才!!気持ちも軽くバス停へ急いだ。



八万人が海峡を渡る



第七班
二宅 輝男

待望の明石海峡大橋ブリッジ・ウオーク、橋梁技術の粹を集め、十年の歳月、総工費五〇〇〇億、気が遠くなる。着工以来莫大な費用と完成までには多くの事故者が出たであろう。

ケイソンの支柱三〇〇メートル、ケーブル一本で六万トンの力を支え、全長三九〇メートル、ケイソンの支柱から支柱まで一九九〇メートル、アンカレッジは三年の月日をかけての竣工。

四月五日の開通を控え各報道機関その他企業が主催し、四〇万人の参加が計画されている明石海峡大橋は、新しい世紀の夢を架けて燦然と幕あけを飾ることになる。

三月二十一日の春の柔らかな陽がさし込む天候のもと全国から三十六万人の応募の中、幸いにも抽選で選ばれ、朝七時半JR垂水駅下車浜辺の仮設テント前には長蛇の列、舞子駅前のアンカレッジまで一時間半、未だ続く人の列、九時スタート、神戸側からと淡路側より一時間毎に出発。神戸側六万、

淡路より二万の人が参加、息をのむ壯観さ。海峡を渡る快い潮風に吹かれて海上の散歩を楽しむ。橋が落ちるのではないかと冗談やジョークがとぶ。懸念された将棋倒しの事故もなく欄干に近寄りぬ様二十メートル毎に一五〇〇人のスタッフが配置され、頑張れの声で必死の連呼警戒の運営がうかがえる。

老夫婦や若いカップル、家族連れ多彩な服装、前後にかけたゼッケンが目立つ。

ケーブル線をバックに記念写真。ハーブ弦の様な線、ロープの美しさを背景にシャッターを切る。

参加者の一部には対岸までで引返す人、淡路まで脚をのばす人。

この頃よりスタッフも参加者も疲れが現われ、橋上で輪になって昼食をとる人、ビールを飲む人、最初の整然さを忘れ、スタッフの注意を聞入れる余裕がない。

仮説トイシが意外と少なく二重三重に婦人の列、迷い子も出る混雑ぶり。

上空には自衛隊機、民間機の祝賀飛行が開通に華を添える。

神戸側より浴衣姿で若い衆がダンジリを引き橋の中央まで練り、淡路側からのダンジリと向い合う。上半身裸で屋根のロープを腰に巻き、エイヤ〜と掛声を上げ扇を振り震災復興を示し、鐘や太鼓の音。勇壮に明石海峡を練り歩く。この威勢の良い光景はその輪に

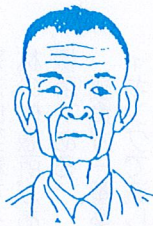
入りたいくらい、頼もしかった。神戸、淡路のダンジリ十八基が北隅の一角、震災記念公園に集合した時は秋の祭典を感じた。公園内には明石大橋開通記念切手、はがき、北海道奥尻町からは特産品の販売コーナーが設けられ徳島からは祝福の四十名が阿波踊りを披露。

世界一の夢の吊橋、震災から立ち直り、近畿と四国の経済ルートとして災害復興の願いをこめた二十一世紀の夢の吊橋が、世の流れを一変するであろう。

失明と胃がん

闘病生活十八年間

を迎えて



第十二班
原田 天豊

光陰矢の如し。生きる為にがんばった十八年間は本当に苦しい毎日でした。手術後二年目くらいで顔見知りの方が殆んど亡くなつてしまった。流動食から固形食に切り替わる時が最大の危機でした。胃の代わりをするはずの十二指腸が堅い物を受けつけない、無理に食べても消化しない、胃はモタしぱなしでからにならず腹がすくと言つ事が無い。一度には口には

いりきれないくらい薬を貰い、何とかして腹がすき、食事がした。いと言つ気持ちになれないものか。毎日その事だけが頭にこびりつく。体はふらついて散歩がやっと、テレビの前で過ごす時間が長い。

豊中市の広報でシルバー人材センターの事を見て仕事をもちつたのも腹減らしの為だった。給料はどうでも良い、たゞ腹が減れば良い、オカユ持参の労働、傷む胃と腹の縫い目のチク〜と刺すような痛みで一日に何度も大の字にヒツクリかえつて痛みを和らげる。やっと普通食が食べられる様になったがむかつきがひどくなるし、又胃が食べた物に拒絶反応を起してけいれんする。その苦しさも大変なものだ、食品に入っている薬品のせいだと気づいた。

完全な無農薬の野菜は手に入らない、自分で作つて食べようと百姓を始めたのが最良の方法でした。薬を止めて十五年、私の体は自然体に出上がった。

緑の中の生活が私に健康を与えてくれた。雨の日も晴の日も一日も休まず体を動かすと腹が減る、無農薬の野菜で、果物、卵、かしわ、畑より手当たり次第に取つてきて腹七分目に食べる。手作りの味噌、梅漬、漬け物、お茶等々現役時代には考えられない様な自然に溶け込む生活。失明そして胃がんを患つたとは思えないような健康な生活が出来る事は、闘病中の

撰生と何としても生き抜くと言つ意気込みで努力した賜物であり、特に家内も家族一同も私の生き方に協力してくれたお陰だと本当に心より感謝しております。

現在の日常生活について述べる。昨年暮れシルバー人材センターの仕事をやめました。と言うのは天豊山荘の在り方を一新して土地の隅々まで完全な無農薬の畑にするためと、隣に別荘がたくさん建ちはじめたので一棟建つている別荘にもう一棟建てる事にしたらでした。

工務店に頼んで一月より建築に取り掛かる予定でした。ところが私の土地が高速道路予定地の真ん中となつている事が分かり、高速道路公園より二名の方が航空写真と書類を持って説明に来た。私の家が南北に走る高速道路とインターの予定地のご真ん中に写つている。エライコツチャー。建築はストップしてほしいと言う。西側の山林を通る様にしてほしいと話した。南と北の村の予定地を繋ぐ為ここだけを変更すると言つ事はむずかしいとのこと。

へリコプターが魚雷のような物二本ぶら下げ低空で頭の上を飛びまわっている。八月頃までに予定道路の杭打ちしたいと言つ。公の為とは言つものの十八年間の苦労が無駄にならない事を祈る。

同好会だより

ハイキング同好会

奥嵯峨・菖蒲谷池コース

山路 政市



嵐山を出て五分ほどで渡月橋を渡つてすべの道を左に折れ桂川沿いに約十分ほどの所で右に、その辺一帯は嵐山の公園で至る所に標識が立っている。木が多いので日陰になっている。釈迦堂・清涼寺を経て大覚寺に着く、右に大沢の池があり、このあたりは口ヶシーヨングが頻繁に行われている。小川沿いに北へ向かえば、あたりは静かな嵯峨野の風景となる。孟宗竹に囲まれた直指庵の前に出た。山

道を登つて間もなく直進は通行止めとなつている。仕方なく左側の道を行く、道幅はだんだんと狭くなり急な上り坂となる。

道は険しく、一ヶ所ほど男の介護が必要である。二十五分ほどで京見峠の頂に着く。峠を下れば菖蒲池に到着する。池のほとりに松林の休憩所があり昼食には最適な場所である。

昼食が一番楽しい。三三五五ハイキングで流した汗の後の食事は格別である。からたちの葉を探すのにひと苦労。滝野さん、黒島さんが多く集めている。次会、おだんごを御馳走してもらおう。また持ちよりのオヤツを分け合う姿はほほえましい。

真言宗大覚寺派の大本山で嵯峨天皇の離宮を後に大覚寺と改称されたと伝えられる。

狭い道を歩きながら三〇分ほどで嵯峨天皇陵に着く。帰りの道は広く湾曲がはげしくこんな高い所までよく作ったものである。

嵐山駅前で皆さんに解散の挨拶で労をねぎらう。参加者十九名。晴

七月例会の、みのおを書く予定であったが、七月十一日は雨で延期となり、六月二十日の奥嵯峨・菖蒲谷池コースを書きました。

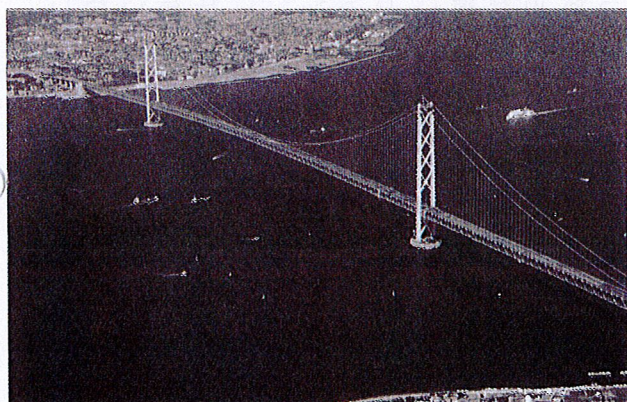
T・シルバートラベル同好会

淡路グルメの旅

事務局

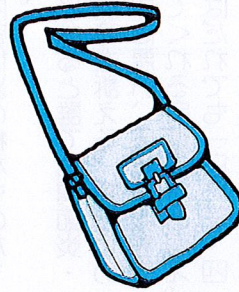
山田英明記

去る四月二十八日、当、T・シルバートラベル会一行、四十一名は明石海峡大橋を渡つて淡路島にグルメの旅をして来ました。午前八時市役所前を出発した大型観光バスのサロンのカーは名神高速、阪神高速神戸線と乗り継いで四十一名の様々な気持を乗せてエンジン音も気持よく明石大橋に向つてひた走る。



上田会長の挨拶のあとに配つていただいたビールをのせいか後部サロンのではすでににぎやかに笑い声

が絶える事がない。バスは市役所前をスタートして、一時間足らずで垂水トンネルに入る。明石大橋はどんなかなと期待に胸をふくらませてトンネルを出たらそこはもう明石大橋の上でした。十年の歳月を経て出来あがった巨大な橋。阪神大震災では土台が一メートルほどずれたとか。直径六十センチのワイヤロープで吊り下げられた道路上を走行している時は橋を渡っている実感はなかった。北淡インターで三十分の休憩、各自三三五五に別れ大橋をバックに記念写真をパチリパチリ。カメラに納めたあとは、もうみやげ物屋に入つてあれこれと思索に余念がない。時間が来たので皆バスの中に案内し次のパルシエ香の館の見学と散策へと車を進める。ここも二十分位の時間で切りあげ南淡路の国民休暇村へ。ここで待望の昼食。約二時間の食事時間に一寸贅沢すきたかなと思つたような豪華な料理は夜の宴会も負けそうだった。酒、ビールは飲み放題に等しい。酒二十本、ビール四十本の大宴会でお互いのコミュニケーションがとれたのは大変よかつたと思う。帰路は丸山漁港で海産物の買物を楽しみ、北淡町震災記念公園の野島断層保存館を見学し目のあたりに見た断層のおそろしさ、一瞬にして地面がこれ程までに移動するのかと自然の力の大きさに驚嘆の声を発する。



今回から上田会長のお骨折りで看護婦さんの添乗が実現しましたので我々役員一同はほっとしているところです。晴天に恵まれ、交通渋滞もなく、全員無事予定より一時間程遅れはしたが帰って来られた事は喜ばしい事だった。次回は九月初旬に広島方面に一泊旅行が決っております。

書道同好会

心の歳だけでも若くありたい。そんな想いで字を習いながら、話し合いながら、楽しい一時を過ごしています。新入会員のご参加をお待ちしております。

豊樂

水ゆき

第四班 日高 技

秋高佳

茨木 節子

第十二班 茨木 節子

風月

龍池望

藤崎 郁子

第十四班 藤崎 郁子

五雲

泰極侈以人從欲良
足深尤至於炎景流
金無鬱蒸之氣微風
徐動有淒清之涼信

第十六班 水野 總一郎

第十六班 水野 總一郎

囲碁同好会

國本 種一

七月二十四日、第二回囲碁大会を開催しました。炎暑の中十五名の棋友が参加、夫々四局の息詰る熱戦を展開しました。

例会では「ちよつと待った」で一挙に形勢逆転するケースもありますが、公式戦であるが故にその手も叶わず、あちこちで「あつ!! しまった」の嘆声しきり。和やかに厳しい熱戦のすえ、優勝 川田政信さん、二位 梶浦武彦さんの成績でした。

次回は平成十二年一月に開催を予定しています。センターの皆様には、碁盤を補足して戴くなど、大変お世話になりました。厚く御礼を申し上げます。



同好会活動予定

★ハイキング同好会

九月の例会を次のとおり実施します。

布引ハーブ園コース(約六km)

日 時：九月十二日(出)

午前八時三〇分

集合場所：阪急十三駅一番ホーム

中央エスカレーター付近

持ち物：弁当、お茶等

その他：雨天の場合は十九日(出)

に順延します。

連絡先：ハイキング同好会代表

山路会員(844-1443)

★書道同好会

日 時：九月十四日(月)、二十八日(月)

午前十時から

場 所：センター会議室

連絡先：書道同好会同好会代表

古市会員(849-4127)

★囲碁・将棋同好会

日 時：毎週金曜日

午後一時から

場 所：センター会議室

連絡先：囲碁同好会

國本会員(852-9093)

★T・シルバートラベル会

秋の一泊バスツアー

九月に実施します。旅行に興味のある会員さんは世話係へご連絡ください。

連絡先：上田会員(852-9093)

山田会員(333-1079)

連絡先：上田会員(852-9093)

山田会員(333-1079)

健康よもやま話

総合人間研究所長

早川 一光 先生



記念講演

「いきいき生きる」をきいて

第一班 岡野寿美子 (元ホームヘルパー)

久しぶりに腹の底から笑った。なぜか、私事ですが、ホームヘルパーとして四十余年間高齢、独居、ネタキリ、身障児者、すべての人達に喜んで頂けるヘルパー活動を目指し、たびたび早川一光先生にご指導を受けた、いわば全国のホームヘルパーの恩師でもある。講演の内容は次の様なものだったと思う。

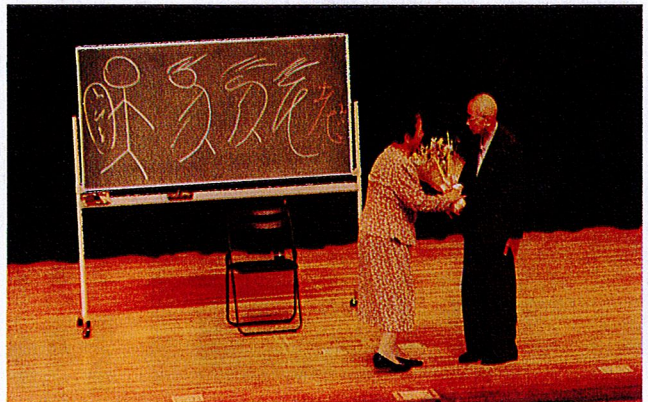
- 一、高齢になると誰でも関節炎・神経痛等を訴える。痛み止め等は体に悪い、天気予報を知らせてくれる良き友だと思え。
- 二、血圧はだれでも一日に三・四回は上下するもの。だが自分は高血圧症だと降下剤を飲み続ける副作用を起こす。飲むな、生活環境を変えて見よ。
- 三、自分は、不眠症だといわれ眠れないから睡眠薬をくれという。初めは少量だが次第に量を増さないとならなくなる。次に一日中、もつろつとして体内の機能も動きが鈍る。

訪問すると〇〇が痛い、こちらが痛いと訴え、〇〇病かしらという。私もすかさず「あらいつからお医者さんになつたの自分で病名をつけるなんて」「病気など追い返せ」と笑い飛ばす日々だった。

人間の機能はすべて痛いからといって動かさないと動けなくなる。半年も過ぎればネタキリになる。暇で何もする事が無いのが原因だ。この歳になる迄生きさせて貰った社会に恩返しさせて貰え、する事がなければ捜してもせよ、例えば公園の掃除をして綺麗になつたら明日も一日楽しく語りあえ、女性のおしゃべりは得意だが、男性は一日しゃべる機会がない。一日中おしゃべりしないと声が出なくなる。知らない人にも挨拶からでも一声かける、そして仲良くなれば眠っているのだ。

眠りが浅いのと目ざといだけで、くたびれて深く眠れる程、体を動かさないからだ。

人はだれでも自分で治す力をもつて生まれたもの、即ち治癒力が



ある。大切な事は気持ちの切り替え、心の切り替えである。自分のような者でも社会にお役に立つ事を捜してもする。それを生き甲斐として、それぞれが年齢に応じた働きをし、時間を決めて散歩したり、一声かけたり、楽しく語り合つて、みんなが健康で朗らかな老後の生活を送つてほしい。お迎えが来るまで大満足な人生であつてほしいと願つたものです。

以上、喜劇的に分かりやすくお話しされた。私もセンターに登録させて頂いているヘルパーとして、これからも地域社会に貢献出来る会員でいたいと考えている日々です。よろしくね。

めぐみ

梅雨が二度も訪れたような、不順な昨今の天気ですが、会員のみなさんはいかがでいらつしやいますか。当シルバーセンターの平成十年度通常総会での理事長挨拶にもありましたが、未曾有の大不況の最中にも拘わらず、昨年度は会員のみなさんのご努力と関係者のお力添えのお陰で、良好な実績を達成することができましたが、これからは、どうすれば会員をもつと増やすことが出来るか、会員の希望する職種をいかに確保するか。課題が残されています。これからも、自主・自立の精神に則り、私達会員の一層の努力が求められています。

今回、藤田泰通さんの意欲的な夏の風物誌「花火」で表紙を飾ることができました。焼津温泉一泊バス旅行の写真は会員の梶田優さん、いつもの事ながら似顔絵は中村徹夫(豊中市福祉保健部長寿社会施策推進室)さん、のお手を煩わせました。厚くお礼申し上げます。